

海外渡航者から *Escherichia albertii* を分離した一例◎志村 敏史¹⁾国家公務員共済組合連合会 大手前病院¹⁾

【はじめに】

Escherichia albertii は 2003 年に登録された菌種で *eae* 遺伝子や Vero 毒素遺伝子を保有することが知られており、食中毒の原因菌として考えられている。今回当院において本菌を初めて分離したので報告する。

【患者背景】

61 歳、男性

当院受診 6 日から 2 日前にかけて中国に旅行、受診前日の朝より 39 度台の発熱と下痢を認めたため、当院外来を受診した。採血および CT 検査の結果より急性腸炎として入院加療となった。入院後症状の増悪を認めず、5 日後に軽快退院となった。

【細菌学的検査】

入院時に提出された便検体を各種培地に接種したところ、S タイプ/X-EHEC II（日水製薬）に乳糖非分解のコロニーを認めた。赤痢菌を疑い WalkAway40SI、Neg EN Combo 1J パネル（ベックマンコールター）を使用し、同定と薬剤感受性検査を実施した。その結果、ESBL 産生 *E.*

albertii（バイオタイプ 41005012064）と同定された。しかし、同定確率が低かったため、被検菌株を大阪健康安全基盤研究所に送付し遺伝子検査による同定および Vero 毒素遺伝子保有検査を依頼した。その結果、*E. albertii* が保有している 3 遺伝子(*clpX*、*lysP*、*mdh*)が陽性であったため *E. albertii* と同定された。また *stx* 遺伝子は *stx2f* を含め、*stx1*、*2* いずれも陰性であった。その他 *eae* 遺伝子、*cdt* 遺伝子が陽性であった。なお本症例は *Salmonella* O4 群も同時に検出されている。

【考察】

本菌は生化学性状の特徴に乏しく、*Hafnia alvei* や EHEC、*Shigella* sp. と同定されていたもののなかに本菌が含まれていたことが報告されている。多くの場合、乳糖非発酵であるが、乳糖発酵の菌株も報告されている。乳糖非発酵、運動性陰性の場合には本菌の可能性も考慮し、追加の検査を行うことで検出率が向上するものと思われる。

【連絡先】

大手前病院 中央検査部 06-6941-0484（内線 3328）